

「研究開発評価システム改革の方向性について」（審議のまとめ）

における「視点」を中心に抜粋，下線は本意見交換にあたり付記したもの

文部科学省・研究開発評価推進検討会委員

栗本英和（名古屋大学 評価企画室）

## I 基本的な考え方

1. 目的に応じた評価システムの再構築 ※評価という言葉の定義について
2. 階層構造と階層間の関係が明確化された評価システム群の形成 ※階層の定義について
3. 一貫性のある評価とマネジメントの実施 ※評価の種類について

## II 評価システムの当面講ずべき改革の方向性

### 1. 評価の観点・基準・視点

- (1) 現行の「必要性」，「有効性」，「効率性」に代わる研究開発に適した，よりふさわしい評価の観点があるのではないか。
- (2) 研究開発の性格に応じて，評価方法は異なるはずであり，性格に応じた評価基準を明確化する必要があるのではないか。
  - ① 「研究者の自由な発想に基づく研究」もあれば「政策課題対応型研究」もある。その研究が実施されているプログラムの目的が，学術的な知識の創出の支援にあるのか，政策課題対応（問題解決）にあるのかで評価方法・基準が異なるはずであり，それらに適した評価のあり方があるのではないか。
  - ② 基礎研究からイノベーション創出に至るまでの広範で多様な研究開発の局面にそれぞれ適した多様な評価の視点があるのではないか。
  - ③ 新たな研究領域を開拓する挑戦的な研究を促すような評価基準が必要ではないか。
- (3) 第3期科学技術基本計画では，「モノから人へ，機関における個人の重視」の基本姿勢を示し，人材育成や競争的な研究環境を醸成が進められたが，一方で，現場では，個人を支える基盤の脆弱や次世代の若手研究者が育つ環境が整備されていない状況が見受けられることから，個人を支える機関の役割を重視するような評価の視点，あるいは次世代の人材育成を重視する評価の視点が必要ではないか。
  - ① “個人の重視”として，次世代の人材の育成を重視する評価の視点が必要ではないか。
  - ② “個人を支える機関の役割”を重視する評価の視点。

③学際・分野融合やイノベーションは、個人だけでできるものではなく、個人と組織の相互連携、それらをつなぐ人の役割が重要。

(4) 独創的な研究や新たな研究領域の開拓を促す価値観の融合を活性化するため、既存の研究グループや研究プロジェクト等の枠組みを超えた、研究コミュニティの動的な研究展開を促進する評価とすべきではないか。

(5) 世界的な視点での評価について、世界的なベンチマークの活用等、研究開発の特性に応じた世界水準の評価方法など、我が国にふさわしい評価方法を明確化する必要があるのではないか。

## 2. 効果的・効率的な評価手法

評価者・被評価者の双方にとって、過重な評価作業負担を回避し、効果的で効率的な評価のあり方の検討が必要ではないか。

## 3. 研究開発評価に係わる専門人材の育成

(1) 研究開発評価に係わる人材について、機動的かつ体系的に養成する仕組みが必要ではないか。

①機関等において、評価の実務や運営に携わり、評価運営の実務的専門性を有する人材の育成とキャリアパスの確立。

②評価対象を分析するための高度な手法を活かし、評価対象の実態を深く把握し評価作業を専門的見地から遂行する人材の育成。

③評価機関、被評価機関の双方において、評価活動を支援することも広義の研究支援の一環であり、研究支援体制の充実に際しては、研究評価に関する業務も配慮すべきである。

(2) 導入段階を経て、プログラムの特性に応じたPD, PO 制度の一層の拡充を図るために、評価の視点における現状把握や今後の拡充方策を検討することが必要ではないか。

①PD, PO の権限と責任の明確化。

②持続的、安定的、発展的にプログラム・マネジメントを行うために、PD, PO 制度, PD, PO の人事制度（キャリアパスを含む）の改革。

## 4. 評価文化の醸成

(1) 専門家が、そのプロフェッションとしての矜持と専門的知識・知見に基づいて、さまざまな局面に応じて評価しあうことを通じて、結果としてその能力を相互に高めていくことにつながることの重要性を共有できるようにすることが望まれる。

(2) 機関・組織の運営や施策やプログラム・制度等の運営においては、現在の状況を評価し、その結果を将来の意思決定につながっていくというPDCA サイクルの確立が重要である。

## 【アンケート集計結果】

(参加者に、以下のアンケート票を配付し、記入を依頼しました。)

## 研究評価活動に関する意見交換 アンケート

本日は、研究評価活動に関する意見交換にご参加いただき、ありがとうございました。お手数ですが、このアンケートへのご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(回答は、該当する番号に○印を付してください。また、記述欄へのご記入もお願いいたします。)

1. あなたの所属についてお聞かせください。

- ① 国立大学      ② 公立大学      ③ 私立大学      ④ 高等専門学校  
⑤ 大学共同利用機関法人      ⑥ 独立行政法人      ⑦ その他

2. 意見交換の内容は、あなたの仕事を進める上で参考となりましたか。

- ① とても参考となった      ② 参考となった      ③ あまり参考とならなかった  
④ 全く参考とならなかった      ⑤ どちらとも言えない

3. 新たな知見が得られましたか。

- ① まさにそう思う      ② ややそう思う      ③ あまり思わない      ④ 全く思わない  
⑤ どちらとも言えない

4. 満足度はいかがですか。

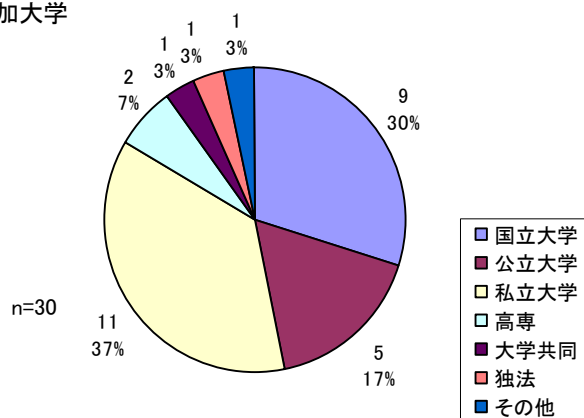
- ① とても満足した      ② 満足した      ③ やや不満であった      ④ 不満であった  
⑤ どちらとも言えない

5. 意見交換全般に関するご意見などがありましたら具体的にお書きください。

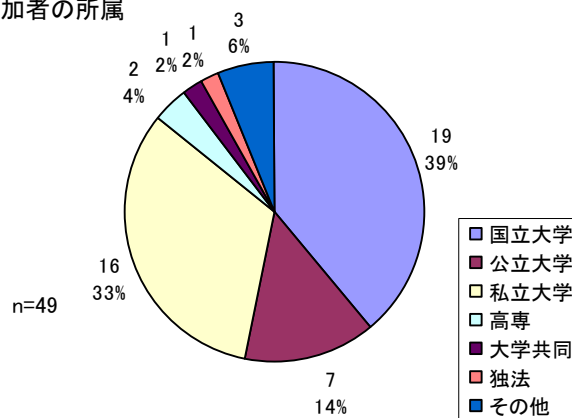
ご協力ありがとうございました。

研究評価活動に関する意見交換（北関東） アンケート集計結果

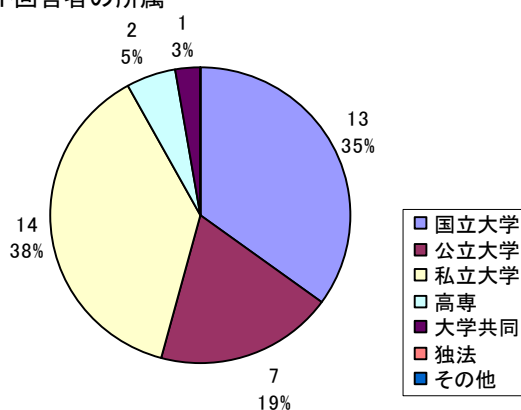
参加大学



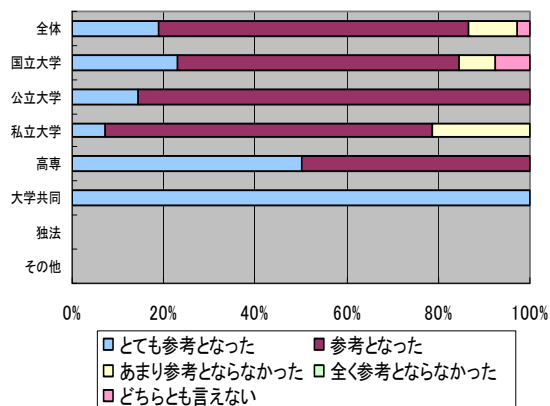
参加者の所属



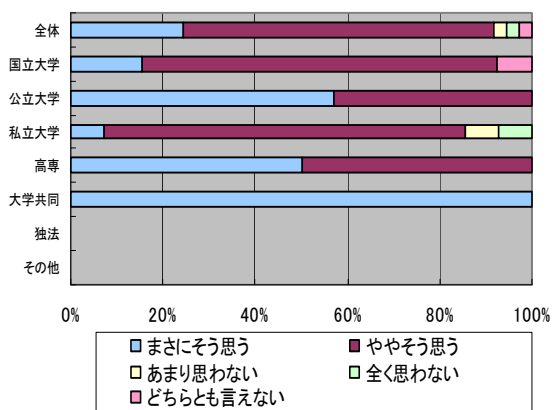
アンケート回答者の所属



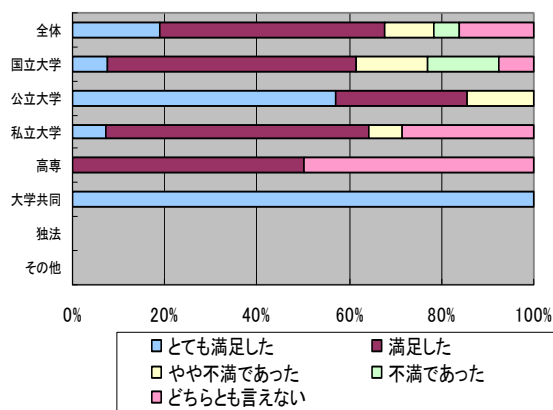
仕事を進める上で参考となったか



新たな知見が得られたか



満足度はどの程度か

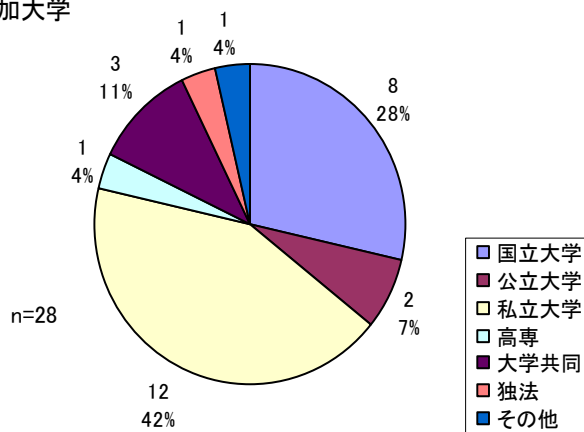


### 【意見交換全般に関する意見】

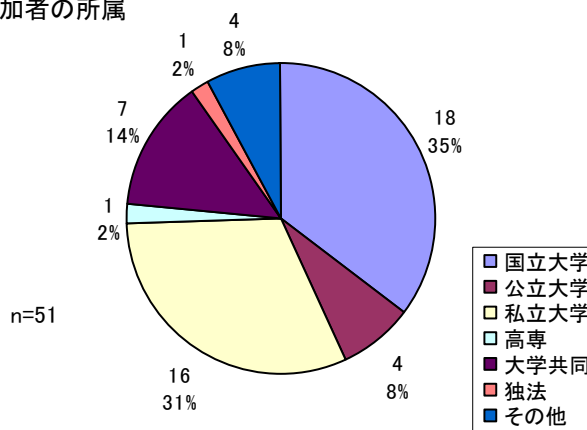
- (国立) 参加者の所属分布（国公私など）がわかると、より討論がしやすかったと思う。
- (国立) 会場からの率直な意見をどう引き出すかが課題であろう。何が課題で、困難な状況がどういったものかを共有するためにも、フロアとのやりとりが必要だと思う。
- (国立) 具体的数字等で評価実態の例示が欲しい。教員評価が目的であるのか、大学評価全体が目的であるのかが曖昧。評価組織に関するあり方等の形式を提示してほしい。
- (国立) 論点が少しぼやけたのではないかと？研究評価活動についてしぼった方がよいのではないかと。また、今後の希望としては、支援者（事務）レベルのパネルディスカッションも必要ではないかと。
- (国立) ステークホルダーからの評価の視点をもっと深める必要があると思った。
- (国立) 大学の規模別の取組状況が分かると良い。
- (公立) ①小さな大学における研究の活性化、特にユニット形成が難しい点、②教育評価をどこまでするか、いろいろ問題を抱えている。この視点からの意見交換の機会をお願いしたい。
- (私立) 私立大学の実践例の紹介をお願いしたい。
- (私立) 大学評価において、研究評価はおざなりになっているのが現状である。研究評価を中心とした大学評価が可能となるようにシステムを開発すべきだと思う。
- (私立) パネルのあと、パネルで話された1、2点に絞って第2部をすすめてはいかかがか。
- (私立) 研究評価業務に職員がどのように関わっていくべきかを考える時、大学としての委員会組織を組み立て、教員に対して評価体制を確立していなければ、実行に移すのは難しいと思われた。
- (私立) 結局、評価することにはどういう意味があるのだろうかという印象を持った。

研究評価活動に関する意見交換（東海） アンケート集計結果

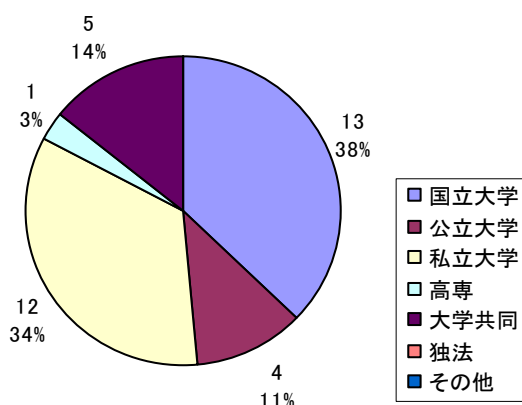
参加大学



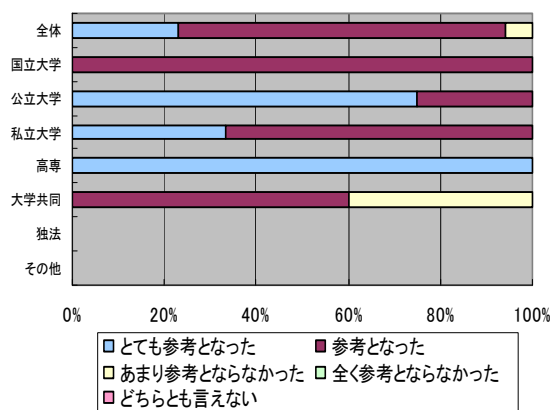
参加者の所属



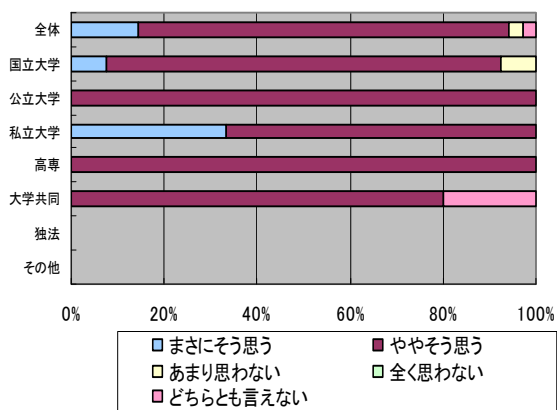
アンケート回答者の所属



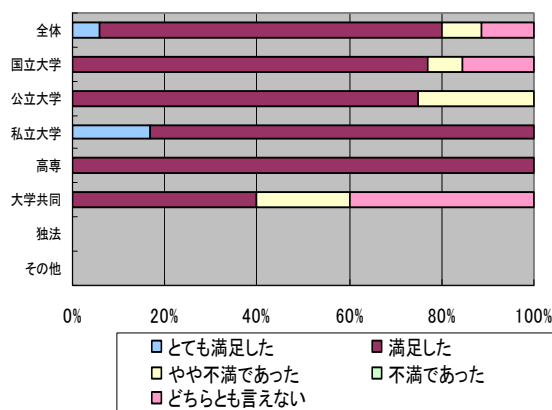
仕事を進める上で参考となったか



新たな知見が得られたか



満足度はどの程度か



### 【意見交換全般に関する意見】

- (国立) 工学系、医学系、などと領域ごとに実施してはどうか。
- (国立) 教員個人評価に関して、非常に参考になった。会全体の進め方に関しては、もう少し会場参加者からの意見を引き出す工夫があっても良いのではないか。
- (公立) パネルディスカッションが良かった。色々な点がスッキリした。
- (私立) 小規模な私立大学は、こうした段階にまで達していないことに大きな問題がある。そうした大学でどのように推進したらよいのかもアドバイスいただけるような機会をつくってほしい。
- (私立) 文系学部に対する評価の実例も聞きたかった。
- (私立) 評価基準や項目に関する他大学の事例を多くご紹介いただきたい。
- (私立) 教員評価はとかくネガティブなイメージで捉えられがちだが、静岡大、名工大のポジティブ活用のヒントはとても参考になった。
- (私立) 私立大学における先進的な事例を聞かせていただければと思った。研究を評価されることに対する教員(団)の抵抗感に対しては、どのような手段で理解を得たのかについて聞きたかった。
- (私立) 経験からの話がよく理解できて良かった。今後の施策に役立つ知識が得られた。
- (高専) 高専の教員評価(教育、研究、課外活動、地域貢献、校務)の中の研究という部分で、参考になった。今後、評価しやすい分野と評価しにくい分野があると思うので、その点をどう評価するのか(例えば、専門と教養、理工系と人文・社会系など)。
- (大学共同利用機関法人)
- 大学と共同利用機関法人とでは、現時点で評価に対する捉え方が違うのではないか。
- (大学共同利用機関法人)
- 評価は何らかの施策のために用いるために意義があり、評価だけでは意味がないことがよくわかった。静岡大学のお話が大変参考になった。要するに、トップのマネジメント能力が大切であること。



## 【参考資料】



(参考)

## 研究開発評価推進検討会について

平成21年5月20日  
科学技術・学術政策局長決定

### 1 趣旨

第3期科学技術基本計画において、研究開発の効果的・効率的な推進、国民への成果の還元が求められており、研究開発評価の重要性も益々高まってきている。その中で、評価対象がより複雑な対象に拡大し、また、評価に対する要求水準も高度なものになりつつあり、評価システムの見直しが不可欠となっている。

このため、科学技術・学術政策局評価推進室において実施している様々な研究開発評価に関する施策や事業を、より効果的かつ体系的に企画・実施することを目的として、研究開発評価推進検討会（以下「検討会」という。）を設置し、助言及び支援を得ることとする。

### 2 検討事項

- (1) 研究開発評価を推進する施策に関すること
- (2) 研究開発評価の研修やシンポジウムに関すること
- (3) 研究開発評価の情報収集や意見交換に関すること
- (4) その他

### 3 委員の構成等

- (1) 検討会の委員の構成は別紙のとおりとする。
- (2) 必要に応じて委員の追加等を行うことができる。
- (3) 必要に応じて別紙以外の者からの協力を求めることができる。

### 4 実施期間

平成21年5月20日から平成22年3月31日までとする。

### 5 その他

検討会の事務は、科学技術・学術政策局評価推進室において行う。

別紙

研究開発評価推進検討会委員名簿

氏名	職名
◎伊地知 寛 博	成城大学社会イノベーション学部教授
○内 田 理 之	理化学研究所筑波研究所研究推進部企画課長
岡 村 浩一郎	科学技術振興機構研究開発戦略センターフェロー
奥 居 正 樹	広島大学大学院社会科学研究科准教授
栗 本 英 和	名古屋大学評価企画室教授
甲 田 彰	科学技術振興機構経営企画部調査役（戦略企画担当）
小 林 信 一	筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授
小 湊 卓 夫	九州大学高等教育開発推進センター准教授
鳶 田 敏 行	茨城大学評価室助教
鈴 木 潤	政策研究大学院大学教授
長 澤 公 洋	日本学術振興会研究事業部研究事業課長
林 隆 之	大学評価・学位授与機構評価研究部准教授

（以上 12 名、五十音順、敬称略）

※ ◎は座長、○は座長代理を示す。

※ 職名は、平成 21 年度のもの。